

2024年度

事業報告書



社会福祉法人 福知山学園

1. プロジェクト進捗報告

	実施事項	責任者	主担当者	副担当	メンバー構成
事業開発	GH North-Side 開設	部長：高根	副部長：蘆田	課長：森田	●三和地域生活シエンセンター スタッフ
	JUMP 機能強化・拡大	//	//	//	//
	居宅介護支援事業所 STEP 開設	//	//	//	//
	地域生活支援拠点整備事業	理事：山本	部長：道下	部長：高根	
	基幹相談支援センター受託事業	部長：道下	課長：上原		●基幹センター・てくてく スタッフ
	CK・SK事業	理事：平野	課長：河田	課長：井上	●栄養課スタッフ
	あまだ翠光園 建替計画	理事：岩佐	副施設長：瀧本		●あまだ翠光園 課長／リーダー
	新規事業開発プラン	理事：平野	部長：氷上	課長：飯田	●部長：高根／課長：河田／理事：山本
	在宅サービス拡大計画	理事：山本	部長：道下	部長：高根	副部長：蘆田 / 足立
コスト管理	関連事業所との契約書内容見直し	理事：堀	課長：細見		●SC総務部／財務部
	バリューアップ計画予算管理	理事：堀	課長：高津		●財務部／総務部
組織改革	情報/ノウハウの円滑な共有と移転	理事：森田	課長：細見		●SC総務部
	ガバナンス体制/仕組みの構築	理事：森田	理事：堀		●SC総務部／財務部／事業推進部
	運営評価体制の整備（コンプラの徹底）	理事：森田	課長：細見		●SC総務部／事業推進部

カテゴリー	実施事項	責任者	主担当者	副担当	メンバー構成
組織改革 人事改革	マネージメント体制の強化	理事：森田	部長：氷上		●SC事業推進部／総務部
	人材確保の強化[1]	理事：山本	課長：上羽		●SC人事部／総務部
	人材定着率の強化[1]	// //	//		//
	教育システムの再構築[on-line化]	部長：吉田	部長：氷上		●SC事業推進部／人事部
	教育システムの再構築[独自研究開発]	//	//		
	教育システムの再構築[自律的キャリア形成]	部長：氷上	部長：吉田		●SC事業推進部／人事部
オペレーション DX	オペレーションの改善	理事：森田	課長：細見		●SC総務部
	サービスの質の向上	部長：吉田	部長：氷上		●SC事業推進部／人事部
	DX戦略の推進	理事：森田	課長：細見		●SC総務部／財務部
	リスクマネジメント体制の強化	理事：森田	部長：氷上		●SC事業推進部／総務部
BCPの強化	BCP・DCPの強化体制の構築	理事：森田	部長：氷上	部長：吉田	●SC総務部／副施設長・副部長
ブランディング	人材確保[2]	理事：山本	課長：上羽		●SC人事部／総務部
	人材定着強化[2]	理事：森田	課長：細見		●SC総務部
	利用者獲得[情報公開・発信・HP・SNS]	理事：森田	副部長：蘆田	課長：細見	山田瑞稀／今川愛梨
	福知山学園プレゼンス向上[1]	部長：吉田	施設長：石坪美聡	副施設長：米澤	副施設長／副部長
	福知山学園プレゼンス向上[2]	理事：山本	課長：上羽		山田瑞稀
	福知山学園プレゼンス向上[3]	部長：道下	副部長：足立	課長：飯田	部長：高根／課長：上原

プロジェクト名	重度対応型GH 3棟 開設	責任者	高根部長	期	2024年度
---------	---------------	-----	------	---	--------

項目		目標	進捗状況
標準目標	三和地域GH体制の再構築	事業体系の再協議	・ NORTH-SIDE開設に伴う、三和地域グループホーム新体制に向けた協議を実施
	NORTH-SIDE 開設	開設計画作成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 7/1～8/31 10月開設に向けて入居者選定、および開設スケジュールを検討 ・ 8/26 NORTH-SIDE新設に係る申請書提出 ・ 9/9 中丹広域振興局より申請受理通知 ・ 10/7～ NORTH-SIDE開設
	サービスの質の向上	高品質サービスを提供できる人材育成・環境整備を行う	<ul style="list-style-type: none"> ・ 法人内介護福祉研修に支援員、世話人が参加 ・ NORTH-SIDE開設後、必要に応じ設備・備品を整備

プロジェクト名	JUMP機能強化・拡大	責任者	高根部長	期	2024年度
---------	-------------	-----	------	---	--------

項目		目標	進捗状況
標準目標	事業所体系の再構築	事業所運営体制・業務体制の明確化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 4/15 定員変更(30名→40名)、および事業所移転に係る申請書提出 ・ 5/15 中丹広域振興局より申請受理通知 ・ 5/1～31 新体制移行に向けた活動シミュレーションの実施 ・ 6/1～ 新体制での運営開始
	JUMP稼働率の向上	定員40名へ変更し、稼働率115%を目指す	<ul style="list-style-type: none"> ・ 6月～3月平均稼働率：110.1% ・ グループホーム入居者の入院や空床により目標値を下回る形となった
	在宅通所ニーズ対応	在宅通所ニーズの対応を積極的に行い、通所の拡大を図る	<ul style="list-style-type: none"> ・ 5/2 中丹支援学校保護者説明会参加 ・ 9/18 中丹支援学校高等部3年生実習打合せ ・ 10/23～25 中丹支援学校生実習実施

プロジェクト名		三和エリア 介護支援事業所開設		責任者	高根部長	期	2024年度
項目		目標	進捗状況				
標準目標	登録利用者へのサービス提供率100%	新規事業所STEP 6月開設	<ul style="list-style-type: none"> ・ 4/15 居宅介護の事業申請提出 ・ 5/15 中丹広域振興局より申請受理通知 				
		ニーズに対応できるオペレーション構築	<ul style="list-style-type: none"> ・ 6/1～30 事業開始に向けてシミュレーションの実施 ・ 7/1～ 居宅介護事業開始 				

プロジェクト名		基幹相談支援センター受託事業		責任者	上原課長	期	2024年度
項目		目標	進捗状況				
標準目標	ケース対応	関係機関との立ち位置・役割の明確化	他事業所に3件・てくてくに5件のケースを繋ぐ。他事業所に繋いだケースについては、都度進捗確認を行い、並走働支援を実践することで、基幹の立ち位置・役割を実感してもらえように取り組みを進めた。(年間実績:88件・延べ件数195件・実人数21人)				
	ネットワーキング	自立支援協議会等を通じた、地域課題解決に向けた取り組み	地域課題解決に向けた各関係機関の会議や勉強会に参加し、多分野・多領域とのネットワーク構築に向けた取り組みの実施。(自立支援協議会・重層支援・民生児童委員・支援学校・介護保険・リハビリテーション・難病・他基幹等)				
	人材育成	事例検討会、研修会等の企画・実施	事例検討会:10月・2月の2回/年実施。次年度継続実施に向けた検討。研修会未実施				

プロジェクト名	地域生活支援拠点整備事業		責任者	山本理事	期	2024年度
項目	目標	進捗状況				
標準目標	経営計画の再構築	実践へ課題整理と取り組み	<p>地域生活支援拠点等の整備には、既存の社会資源を生かしつつ、各機関で役割分担を行いながら、障害者等の生活を地域全体で支えるためのサービス提供体制を構築する「面的整備型」と、5つの機能を集約し、グループホームや障害者支援施設等に付加した「多機能拠点整備型」で構成されている。</p> <p>令和6年度より、福知山市では、複数の事業を展開する規模の大きな法人の拠点をハブとして、既存の市内の障害福祉サービス事業所と連携する「面的整備型」と「多機能拠点整備型」の「ハイブリッド型」を採用。福知山学園として、4月に18事業所を福知山市の拠点事業所として登録。</p> <p>法人としても、拠点事業としての受け入れはななく、福知山市でも登録自体殆どない状態であるため、実運用について大きな課題として残った。</p>			

プロジェクト名	CK・SK事業		責任者	平野理事	期	2024年度
項目	目標	進捗状況				
標準目標	SK拡大	各グループホームへの食事提供	法人内各GHへのセントラルキッチンからの配食提供を完了			
	コスト管理	給食ソフト運用による、コスト管理の実施	<p>単価確認は月2回実施。一昨年より食材高騰が続いており、食単価自体もかなり上がってきている。コストは常に状況把握しているが、献立についても栄養バランスを確認しながら、運用している。全てのGH配食が完了する中で、給食ソフトのカスタマイズが必要となってきた。現在京セラにカスタマイズに向け依頼中。</p>			
	栄養マネジメント管理	各施設の栄養マネジメントPDCA体制強化	通所生活介護事業の栄養改善を実施し、3カ月の見直しや、各SK管理栄養士の進捗を毎月確認。適宜CK管理栄養士が訪問確認を実施中			

プロジェクト名	あまだ翠光園 建替計画	責任者	岩佐理事	期	2024年度
---------	-------------	-----	------	---	--------

項目		目標	進捗状況
標準目標	建替計画書作成	現状の確認・課題整理① (ハード面)	施設内会議（分科会・全体会）において、ハード面の課題について意見出しを実施中 強度行動障害特別支援グループに関しては、毎月の定期会議の開催に合わせて資料を作成（次年度についても、継続して開催予定）
		現状の確認・課題整理② (ソフト面)	勤務シフトを中心とした現支援体制の課題へのアプローチは終了（支援体制強化完了） 強度行動障害特別支援グループに関しては、毎月の定期会議の開催に合わせて資料を作成（次年度についても、継続して開催予定）
		あまだ翠光園の未来像の整理・確認	上記、内容を施設内で確認作業進行中 定期の施設内会議において、現場支援者を中心に意見抽出を実行中

プロジェクト名	新規事業開発プラン	責任者	氷上部長	期	2024年度
---------	-----------	-----	------	---	--------

項目		目標	進捗状況
標準目標	新規事業プラン作成	施設見学と情報収集	新規事業の検討において、7月に和歌山への施設視察見学を実施した。今後の事業展開を考える中では就労系事業構築が望ましいことからの収益性の確認、労事業の組み合わせプランの構築を検討してきた
		課題整理	継続性の高いプランとなりうるか、収益率・人材確保・利用者像等含めて、事業との整合性の整理を実施してきた。ただ今後新規事業として考える中では、現事業を強化・ブラッシュアップしていくという現状からの脱却も法人の課題であり事業展開とも成り得るとも考えている。
		企画・制度設計	就労事業とGHの構築を軸に制度設計の再構築を検討してきたが、その内容と共に上に課題として挙げた現事業における事業推進も、一定新規事業として次年度進めていく事案と捉えている。

プロジェクト名	在宅サービス拡大計画		責任者	道下部長	期	2024年度
項目	目標	進捗状況				
標準目標	在宅サービスへの事業展開	基幹センター連携による市内ニーズの把握・分析	病院退院後の訪問系サービス（居宅・重訪・訪問入浴等）・B型・GH・就労移行のニーズあり。シンフォニーには引き続き男性ヘルパーニーズが多い。			
		近隣支援学校との連携	中丹支援学校R7年度卒業生の進路希望状況として約半数が生活介護・就労B型の意向を確認。氷上支援学校については、R7年5月に確認機会を持つ予定			
		サービス広報活動の構築・強化	法人問いHPホームへの問い合わせ3件(1～3月)・就労B型事業所への仕事依頼あり。			

コスト管理

プロジェクト名	コスト管理		責任者	堀理事	期	2024年度
項目	目標	進捗状況				
標準目標	関連事業者との契約内容の見直し	主に電気料金・水道料金について、月次の使用料金額を確認し経費削減と啓発を行う。	電気代は予算93百万円実績98百万円（執行率105.9%）、水道代は予算32百万円実績26百万円（執行率80.6%）となり水道光熱費として執行率99.8%と予算内で推移した。各事業所で電気代の節約は啓蒙を行っていたが冬場の気温が低く後半に電力を多く消費した。			
		給食材料費について、CKへ定期的に確認し、業者見直しを含めて適正範囲で削減を行う	給食材料費は予算1億2千3百万円実績1億6千7百万円（執行率136%）と予算を大幅に超過した。お米をはじめ多くの食材単価がアップし、今後も上昇する可能性はあり次年度も引き続きセントラルキッチンと情報共有しながら対応を行っていく。			
		各種保険・サービス・保守契約について随時見直しを行う	火災保険料や業務災害保険、車両リースなど新規保険会社など相見積を取りながら経費の削減ができた。業務災害保険については保険会社の提案もあり契約内容を見直し80万円程度削減できた。			

プロジェクト名

コスト管理

責任者

堀理事

期

2024年度

項目		目標	進捗状況
標準目標	バリューアップ計画 支払完了とキャッシュ フロー管理	バリューアップ計画 Ⅲ期 についての適正予算管理を行う	バリューアップ計画Ⅲ期について追加工事等が発生したが、担当者と情報共有しキャッシュフローを確認しながら追加の銀行借入を行わない範囲で支払いを完了した。
		短期キャッシュフロー表を随時更新 し 安全な資金運用を行う	会議時にキャッシュフロー表を確認いただき資金の範囲内で投資を行い短期的に安全な資金運用ができた。セントラルキッチンや高齢事業所への運転資金の繰入があったが迅速に対応できた。
		融資について銀行と常に情報共有 しながら安全な資金管理を行う	三井住友銀行と京都北都信用金庫の担当者と定期的に会い事業の進捗と資金について情報共有しながら資金管理を行った。資金運用についても相談しコーラブル預金を行い資金の有効活用を行った。
標準目標	バリューアップ 完遂後の予算管理	バリューアップ計画 完遂後の 法人積立金について適正管理を行う	令和7年度の予算にある将来のあまだ翠光園建替に向けて小規模強度行動障害ユニットの建築や、三和地域グループホームの見守りシステムの導入等に必要なキャッシュフローを確認しながら適正管理できた
		中期キャッシュフロー表を随時更新 し、中長期の投資計画のための資金 管理を行う	セントラルキッチンの委託費単価を見直し10年後のあまだ翠光園建替えに向けてのキャッシュフローを確認し各事業所の運転資金や予備の修繕費を確保し借入金の返済を計上しながら安全な投資計画を作成確認できている
		借入金の返済や新規借入金の可能性 も検討しながら銀行等外部機関と協 議する	現在の投資計画では銀行借入の予定はないが銀行担当者とは常に情報交換しながら対応できた。資金の運用についての提案や、DX関係についても情報をいただきながら今後も有益な情報を得ながら不足の事態にも対応できるように対応していく

プロジェクト名	情報/ノウハウの円滑な共有と移転		責任者	森田理事	期	2024年度	
項目	目標	進捗状況					
標準目標	DX戦略の推進	レポートラインを明確にし、業務ワークフローを制度化する	FUKUGAKUポータル・グーグルドライブ等を活用し業務ワークフロー整備を継続実施				
		会議・委員会体制の見直しに伴い、法人・施設運営に効果的な組織体制を再構築する	理事者（執行役員会）・施設長（管理者会議）・副施設長（運営会議）・専門職（医務、栄養会議）等の階層に応じた会議体系を構築し継続実施				
		データPF活用制度設計（リアルタイムでの情報共有・検証）	各種会議開催方法・会議資料・議事録等をグーグルドライブ内でリアルタイム共有し、経営判断の迅速化を促進				

プロジェクト名	ガバナンス体制/仕組みの構築		責任者	森田理事	期	2024年度	
項目	目標	進捗状況					
標準目標	ガバナンス体制の構築	ガバナンス業務設計	2024年度 公認会計士による予備調査を完了				
		サポートセンターの新たな業務分掌についての実践と検証	法人ガバナンス構築の為、サポートセンター財務部・総務部連携で公認会計士監査対応を実践				
		会計監査についての協議	2025年度より開始される公認会計士監査対応に向け財務部・総務部で継続的に実施				
標準目標	法人評価体制整備	法人規程等の管理システム整備	FUKUGAKUポータルサイトにて法人内各種規程管理をシステム化				
		コンプライアンス モニタリング機能開始	公認会計士監査対応で発生するコンプライアンスに関する課題点等のモニタリング開始				
		自己評価PDCA体制構築	公認会計士監査予備チェックシート等を活用し継続実施				

プロジェクト名	マネジメント能力の強化	責任者	山本理事	期	2024年度
---------	-------------	-----	------	---	--------

項目		目標	進捗状況
標準目標	組織・階層の在り方についての課題整理	組織・階層の在り方についての明確化	日本総研のコンサルを受ける中で、新たな法人執行体制とサポートセンター体制・各部署の業務内容、等級ごとの役割表を完成することができた。また、サポートセンター業務分掌表に併せて、各施設・事業所においても、業務分掌・役割表の作成に取り掛かり、80%は完成。来季も引き続き、協議を重ねていく中で、2025年度完成を目指す。
		管理職の役割・責任・スキルの明確化	
	実践・検証ができるマネジメント体制構築	日々の、ヒヤリハットの発信・共有はDX化により機能は向上した。ただ、事故報告については発信された事故報告に対して、ケースクローズが長期化する傾向が目立ち、再三の全体周知を要する状況であった。併せて、事故発生後の検証体制も徐々に弱まる傾向にあるため、管理者側のリスクマネジメントの意識向上が来季の課題として残った。	

プロジェクト名	人材確保・定着	責任者	山本理事	期	2024年度
---------	---------	-----	------	---	--------

項目		目標	進捗状況
標準目標	戦略的人材採用計画	戦略的採用企画提案と実践	採用戦略として、新卒向け：奨学金返済支援制度、新規採用者むけ：就職祝金制度、職員給与Baseupの企画が運用開始されている。結果として新卒10名・中途採用52名と効果は表れている。
		採用コンテンツのパッケージ化	定期的に業者からの採用ブランディングやコンテンツのプレゼンを受ける中で、福知山学園に適したコンテンツを協議してきた。しかし、多種多様なコンテンツがある中では採用戦略として絞り切れていない状況となった。再度、活動分析を行う中で効果的なコンテンツとコスト管理が来季の課題となった。
		採用最適チャンネル設定企画と実践	
標準目標	採用実績分析と離職者対策	職場環境改善指標設定と認証制度取得	インターナルマーケティングでの職場改善要望を聞き取る中で、視覚化・改善目標設定をする中で、ハード面では早急な改善対応を実施してきた。
		エンゲージメント施策の検討	職場環境改善としては、特にハード面中心に働きやすさを軸に改善に取り組んできた。しかし、エンゲージメントという分では、職員のソフト面等をアプローチできる、取り組みが必要であり、来期の課題として残った。
		職員定着率向上	65年という法人であるため世代交代の時期を迎える中で、離職者増加。引き続き対策を検討していく。

プロジェクト名		教育システムの再構築		責任者	吉田部長	期	2024年度
項目		目標	進捗状況				
標準目標	新たな研修体制の構築	法人研修体系を新たに再構築し、座学・実技含めた人材育成を目指す	全職員を対象として身に付けておくべき介護福祉の知識と技術を習得することを目的に京都保育福祉専門学院の岡本副学院長を講師として介護福祉研修を通年で開催し、年間6回、約180名が参加した。来年度も継続開催することとし、年間6回の日程調整済みである。今年度は中堅職員、役職者への研修が実施できなかったため、第4四半期に新規採用者から役職者を対象として改めて来年度の年間研修計画を作成した。研修項目は継続的に追加修正を行う予定である。				
		施設独自研修の開発	施設で実施すべき研修を年間計画にプロット済みである。ICT,ロボット関係の研修など各施設で開催する項目の明確化は、引き続き検討中である。				
		自立的キャリア形成への転換	自立的キャリア形成のための基盤となるように、新規採用者から役職者を含めて来年度の研修に盛り込むこととしたい。				

プロジェクト名		オペレーションの改善		責任者	森田理事	期	2024年度
項目		目標	進捗状況				
標準目標	業務整理	各種業務内容整理と業務分掌	日本総研と法人内各施設・職種の業務分掌整理協議を継続実施				
	業務オペレーション確認	業務におけるワークフローのDX化	各システム等を導入しDX化を促進。2025年度よりレイテクソリューションと業務オペレーション・DX化に関する再精査を実施				
	サービスの質の向上	サービス指針における評価システム自走	各施設においてサービスに関するチェック、IMやチェックシート・組織活性化プログラムの実施等の結果を踏まえた各所での振り返りと協議を行ってきた				
		介護技術の向上（虐待防止、人権意識の醸成）	年度計6回の法人介護福祉研修を実施。多職種参加者間での研修ということで、色んな視点や考えがその場でも出され介護技術の向上のみならず対人援助としての意識醸成にも繋げてこられた				
	好事例のe-learning化	各施設における業務実践についてを報告する機会の検討を進めている。その中今年度は知福協の研修会にあまた翠光園から、短期入所利用者への支援実践の報告を現場スタッフが登壇し行った。					

プロジェクト名	サービスの質の向上		責任者	森田理事	期	2024年度
項目	目標	進捗状況				
標準目標	DX戦略の推進	介護・支援記録システム ケアカルテ導入後のデータ活用促進	新規加算算定に伴い、記録等を含むケアカルテ内での一括管理協議を継続的に実施			
		請求業務本部集約化	財務部にて継続協議中			
		報・連・相のDX化を促進させる中で、情報共有の高度化・迅速な経営判断を行う	レイテックソリューションとDX化促進及び効率化に関する協議を継続的に実施			

プロジェクト名	リスクマネジメント体制の強化		責任者	氷上部長	期	2024年度
項目	目標	進捗状況				
標準目標	リスクマネジメント体制の強化	事故報告等についてのDX化	<ul style="list-style-type: none"> 各施設事業所からのGoogleform→kintoneへの事故情報発信とその管理について、法人内でのシステムを活用 報告の発信～確認の動線についても運営会議で定期的に確認し運用できている状況 確認に使用のチェックシートの活用については、シートの管理といった点での整えは今後必要 			
		法人リスクマネジメント体制の再構築	<ul style="list-style-type: none"> チャットワークを使用し、毎月および部内にて必要だと感じられるタイミングでRMについての発信を年度内延べ13回行い、法人全体への注意喚起とお願いしてきた 事故発生時には、報告が挙がった際に担当部署より施設事業所へ出向き、実地確認と今後の対策等についての協議・共有を都度実施してきたが、管理・報告といった部分ではシステム構築が必要 			
		虐待防止対策の徹底と検証	<ul style="list-style-type: none"> 7月と2月の2回、計画に沿って虐待防止のチェックシートを全職員対象に実施した その結果を報告書として法人集約し、その後各所において会議等の時間を使用し、その結果に対する考察と今後に向けての協議を実施した 			

プロジェクト名	BCP/DCPの強化体制の構築		責任者	森田理事	期	2024年度
項目	目標	進捗状況				
標準目標	BCP体制の再構築	段階的levelupを図った BCP訓練の実施	12月6日に法人全体でのBCP訓練を実施した。今年度について別日ではあるが「非常食調理」の内容を追加し、当日の実施シナリオは前年度を踏襲する形とした。当日は福知山市危機管理室室長にサポートセンターにてご参加いただき、メイン施設のむとべ翠光園には訓練に消防署立ち合いをいただいた。			
		地域関係者との連携体制の構築	福知山市危機管理課、福知山市消防との連携体制を継続			
		地域貢献として物資供給体制の検討	きょうとフードセンター事業に参画し、地域拠点として子ども食堂等への物資提供等を実施			

ブランディング

プロジェクト名	人材確保[2]		責任者	山本理事	期	2024年度
項目	目標	進捗状況				
標準目標	ブランディングと情報 発信	SNS活用による情報発信の実践	インスタグラム フォロワー1600人、X フォロワー 1200人と一定以上のフォロワー数を獲得。上半期では、インスタ広告、SNS採用を実践中。			
		セミナーコンテンツ企画・発信	インスタにて介護研修の情報発信に合わせて、介護技術の簡単動画を掲載している			
		働き方改革等認証制度企画・申請	事業主行動計画を提出する中で、小牧社会保険労務士事務所に確認を頂き、目標値クリアに向けて実践中。			

プロジェクト名	人材定着強化[2]		責任者	氷上部長	期	2024年度
項目		目標	進捗状況			
標準目標	エンゲージメント向上	法人内情報発信企画・強化	■チャットワークを使用した法人内への情報発信と共有確保を実施した ①スタッフによる経営理念に対する想いの投稿発信 / ②事業推進部によるRM投稿発信 / ③運営会議参加管理者による意識向上・注意喚起の投稿発信 / ④採用やサービス利用における見学者の情報、健康診断や予防接種等の実施スケジュール情報の発信			
		インターナルマーケティング調査による業務改善企画と実践	■法人内全スタッフを対象に8月～10月上旬にIM面談を実施した ①面談は個別で法人管理者2名が聴き取り対応。また、事前アンケートを課し面談時に提出 ②終了後は施設事業所毎にアンケート集約と課題含めた「IM調査報告書」を作成し発信した ③IM調査報告書を受けて各所にて結果の確認と課題に対する協議考察の実施した			
		社会貢献活動の推奨・制度構築	■FUKUGAKUフードパントリー（きょうとフードセンターからの食品荷受けと引き渡しの対応） ・4月5月6月7月の計4回対応を実施			

プロジェクト名	利用者獲得		責任者	森田理事	期	2024年度
項目		目標	進捗状況			
標準目標	情報発信戦略企画	外部への情報公開コンテンツの整理	SNS（インスタグラム/X）、HPによる外部への情報発信の推進と閲覧データ等の定期チェックを継続的に実施			
		地域ニーズ分析とサービスコーディネート仕組みの構築と実践	次期施設整備計画構想（あまだ翠光園、おさだの翠光園）にて地域ニーズ分析等を行い仕組みを構築			
		ホスピタリティー についての課題整理	インターナルマーケティングで集約されたヒアリング内容の課題整理と実践を継続			

プロジェクト名	ICT強化		責任者	吉田部長	期	2024年度
項目	目標		進捗状況			
標準目標	<ul style="list-style-type: none"> 研究協力 同時調査の実施 	大学との研究協力について実践と情報公開	2021年からの継続調査である宮城学院女子大学の林助教によるみわ翠光園建て替え前後の比較調査について、2024年8月と2025年3月に職員行動調査と活動量調査、体幹前傾調査を実施した。2025年夏期と秋期のに継続調査を実施予定である。			
		独自調査 「介護リフト導入によるスタッフの身体的負担の変化」3回目調査実施	2023年2月に実施した調査結果を基に、2024年11月に開催された第11回日本予防理学療法学会学術大会で発表した。			
		ICTの支援現場における効果検証に関する調査の実施	2024年2月にみわ翠光園で実施した見守りシステムアンケート結果について報告書を作成した。2024年12月に開催された第12回障害者支援施設部会全国大会において、上記2つの調査結果を含め、見守りシステムと介護ロボットについて実践報告として発表した。			

プロジェクト名	フィールドワークの展開		責任者	山本理事	期	2024年度
項目	目標		進捗状況			
標準目標	<ul style="list-style-type: none"> 京都府内各大学とのフィールドワークの展開と実践 	インターンシップ（仕事体験含む）受入れ20名	25卒者：仕事体験1名 北部インターンシップ15名（大谷大学13名、佛教大学2名） 26卒者：仕事体験1名 インターンシップ2名 北部フィールドワーク32名（福知山公立大学25名、神戸女子大学7名） 合計：51名受入れ			
		フィールドワークプログラム検討	各大学等からのフィールドワークのニーズ把握が難しく、フィールドワーク、職場体験、見学等明確に仕分けをする必要もないが、福知山を又福知山学園を知って頂き、学びの社会資源となるように、プレゼン・情報発信を企画していく必要がある。			

プロジェクト名

企業コラボ

責任者

道下部長

期

2024年度

項目		目標	進捗状況
標準目標	企業コラボ	法人と企業連携の企画について継続協議	三恵観光より、友就館へチラシのポスティング作業についての依頼あり。回数（頻度）や作業賃等詳細の確認の機会を持つ予定
		法人ネット販売サイト開設	導入に向けての資料を作成し、SC総務部に確認をしていただいたが、以降進捗なし。

2. 各施設・事業所 事業報告

事業所名

セントラルキッチン・サテライトキッチン

期

2024年度

項目		目標	実績値	進捗状況
標準目標	稼働	6事業所・GH全てCKから配食	6事業所及びGH2棟稼働	法人内全GH・おさだ地域・みわ地域すべての事業所に配食が完了
	人員配置	運用人数に基づいた近似値の配置	—	ニチワ電機と協働で各CK及びSK人員適正配置を検証
	衛生管理	HACCPに基づいた衛生管理の徹底	CK・SK 6事業所	栄養管理課会議でCK/SKで衛生管理の履行状況及び確認を継続的に実施。SK訪問時に調理現場、身だしなみの確認及び、是正を実施
	有給消化率	平均90%を実現	91.7%	達成率：101% 昨年度：99.5% (1.5%UP)
	コスト管理	ソフト単価設定からの食事単価管理	給食ソフト運用	SK・GHの食数管理。GHの配食が完了し、給食ソフトの各事業所枠がとれなくなり、京セラにカスタマイズできるか依頼中。献立会議にて日々の食単価の確認
	離職率	3%以下	3%	CK配送・洗浄業務者の高齢化及び体調面不良による離職が増加
施設の目標	人事	教育	給食ソフトの運用 モニタリングシステムの運用	給食ソフトの有効活用による食単価の把握。モニタリングシステムの理解、適正な温度管理の実施
		エンゲージメント	製造工程管理・時間工程管理	CK/SKの製造、時間工程の課題の抽出、人材配置
	業務	サービス品質	美味しいの追求と在庫管理	SKの検食表をもとに調味料、食材の調理時間を調整。CKにて試作品の試食を適宜実施し献立に反映
		生産性向上	時間工程管理からの生産能力の確保	月2回献立会議を実施、製造工程にロスが生じない献立、機器回転方法の改善を実施
	その他	改善活動[1]	SOP（標準作業手順書）の改善	検食表を参照に適宜、SOPの変更及びSKへの共有を実施
改善活動[2]		オペレーション標準化	調理工程の確認及び食形態の統一化を実施。トロミサーバー、ブ里克サーを適宜設置しオペレーションの標準化	

事業所名

むとべ翠光園

期

2024年度

項目		目標	実績値	進捗状況
標準目標	稼働率	入所：成人：98.6% 児童：98.0% 生活介護：98.0% 短期：99.0%	入所：成人 98.9% ：児童 98.9% 生活介護：119.7% 短期：95.3%	成人：3名のご利用者の入院があったことで、稼働の低下が見られた。目標値はクリアーした 児童：令和5年度から令和6年度の入退所3名、令和6年から令和7年度の入退所7名は計画的に進められた。なお、移行に向けた宿泊伴う体験利用、帰宅が多く稼働低下に繋がった。
	人件費率	成人：45.1% [人件費：1,942万円] 児童：52.2% [人件費：5,864万円]	成人：39.3% 児童：46.6%	成人人件費：18,722万円 達成率：87.1% 児童人件費：5,641万円 達成率：96.1%
	積立額	積立額：9,936万円	1億 882万円	達成率：109.5%
	有給消化率	平均75%	83.3%	達成率：111.0% 昨年度：82.0% (29%UP)
	残業時間	年間：20時間以内/人	8時間/1人：年間	障害児入所施設の欠員職員が出たこと、退所児が7名あったことで、超過勤務対応を要した。
	離職率	5%以下	4%	目標値はクリアーしたが、離職者を4名あり。
施設の目標	人事	教育	4名以上	【法人内】法人介護研修 【施設外】社会福祉専門セミナーⅣ ファシリテーション技術研修 ABAセラピスト研修 【施設内研修】感染症対策研修 普通救命講習Ⅰ ハラスメント研修 虐待防止研修
		エンゲージメント	帰属意識を高める	今年度実施の二回の評価面談及び、インターナルマーケティング、組織活性化プログラムの結果を基に、職員個々の困り事を一つ一つ解決に結びつけることで、職員個々のエンゲージメントレベルを上げるよう心掛けた。また限定、パート職員主体の会議を持ち、日々の支援上の困り事や一人一人の思いのヒアリングを行い、改善すべき事項については即日実施した。
	業務	サービス品質	サービスの質の向上	ご利用者それぞれのニーズ、ストレングスを十分に加味した生活支援計画書の作成、支援内容のモニタリングを行う中で、ご利用者個々にとって本当に必要な支援の充実を図ってきた。
		生産性向上	効率の良い職員の働き方	今年度に於いては、適時マンパワーの適正配置を進め、必要とされる施設入所支援（食事、入浴、排泄）についてはマンパワーを投下する事が出来たが、反省として生活介護としての日中活動を十分に行う事が出来なかった。
	その他	改善活動	職員の働き場所の 環境整備(月/回)	毎月の5S実施日に各ユニットの環境整備を実施（月4～5/回）、大型ゴミの処分も年二回実施済。また適時ユニット会議等で機器の経年劣化による故障、不具合を共有し、迅速に修繕及び更新工事を計画的に実施してきた。
		電気使用量の削減 (前年度比-5%)	今年度半期（4月～9月）の電気使用量274,351kw（昨年243,372kw/昨年対比112.7%）金額昨対108.8%(577千円増)の結果であり、猛暑の影響下で使用量、金額ともに増加している。	

事業所名

あまだ翠光園

期

2024年度

項目		目標	実績値	進捗状況
標準目標	稼働率	施設入所支援：99.0% 生活介護：100% 短期入所：100%	施設入所支援：98.92% 生活介護：100.6% 短期入所：86.86%	
	人件費率	68.7% [人件費：2億4049万円]	64.5%	人件費：2億2218万円 到達率：92.38%
	積立額	1億122万円	1億4794万円	達成率：146.1%
	有給消化率	平均75%以上	89.3%	達成率：119% 昨年度：78% (11.3%UP)
	残業時間	年間：10時間以内/1人	6.6時間/1人：年間	
	離職率	5%以下	8.8% (計6名)	5月：1名(看護師) 6月：1名(支援員) 9月：1名(支援員) 11月：1名(調理) 12月：1名(支援員) 3月：1名(調理)
施設の目標	人事	教育	外部専門研修、法人内研修等受講による 専門性の理解・向上	法人内研修：9回 延べ参加者18名 法人外研修：24回 延べ参加人数：38名 施設内研修：2回 延べ参加者：65名
		エンゲージメント	個別面談 スタッフとのコミュニケーションの充実	定期面談 + 新規採用者面談を実施 朝礼・夕礼時に、30秒スピーチを実施し、コミュニケーションの活性化に取り組んでいる。
	業務	サービス品質	ご利用者支援・生活の質向上	個別支援計画書の見直しを実施し、支援力の向上に向けた取り組みを実施中 個別支援の機会・時間の確保を実行中。
		生産性向上	業務内容・体制のブラッシュアップ	支援力の向上を目指し、施設全体の勤務業務の見直しを実施中(今年度中に完成予定) 「2024 あまだ翠光園1.5プラン」を作成し実行・完遂
	その他	改善活動	施設内環境整備・美化推進	施設内全職員で「5S活動」を実施 施設内全エリアの備品整備・断捨離・修繕等を実施完了

事業所名

おさだの翠光園

期

2024年度

項目		目標	実績値	進捗状況
標準目標	稼働率	入 所：99.0% 生活介護：99.0% 短 期：100%	入 所 97.8% 生活介護 104.2% 短 期 117.2%	日中一時:69.6%
	人件費率	43.4%[人件費：2億2006万円]	37.5%	人件費：2億1559万円 達成率：86.4%
	積立額	積立額：1億2006万円	1億3982万円	達成率：116%
	有給消化率	平均75.0%	84.2%	達成率：112% 昨年度：77%（7.2%UP）
	残業時間	年間：20時間以内/1人	2.12時間/1人：年間	135.82時間/64人
	離職率	5%以下	10.9%	7名退職（9月：1人、12月：1人、1月：1人、3月：4人）
施設 の 目 標	人事	教育	法人内研修の履行、 施設内研修の実施	<ul style="list-style-type: none"> 法人内の介護研修については、毎回3～4名の職員が受講を計画し、ほぼ計画通りに進めていく事ができた。ただ会議や勉強会という形での情報共有の場は設定できず、普段の支援における職員間での話のみとなっていた。 施設内では、福祉器具の使用について専門家に依頼し説明及び実践の機会を設定し実施してきた。感染症対策に関しては研修を受講した職員による実践報告として設定し実施した。
		エンゲージメント	目的・目標を共有した 取り組みの実施	<ul style="list-style-type: none"> 経営理念、職員心得・模範となる行動集の読み合わせについては、朝礼時に実施。朝礼での報告事項が多い等の関係で十分には実施できていない時もあったが、今後も継続して実施していく。服薬基本動作の確認についても、年間を通じて朝礼と夕礼の開始時に読み合わせを実施してきた。今後においても服薬基本動作の浸透と定着に向けて実施していくこととする。
	業務	サービス品質	支援・サービスにおける 標準化を図り、 質の向上に努める	<ul style="list-style-type: none"> 年間を通じて、業務マニュアルご利用者支援におけるサービスの標準化を目指し、検討・変更を実施してきた。会議形態の変更に伴い、話し合いの場の設定が難しいこともあったが、年度後半より生活フロアの検討の場を設定することで、ご利用者支援における課題を検討共有できるように取り組んできた。
		生産性向上	業務効率化と省力化	<ul style="list-style-type: none"> 修繕においては、その都度業者に連絡を取りながら補修や交換を実施してきた。それでも、経年劣化が進み、修繕が必要な箇所が表出してきたおり、優先順位をつけて取り組んでいく必要があった。修繕・改修計画と併行して、職員室のフリーデスク化による職員室の再整を行い、安心安全でわかりやすい生活環境整備を推進していくこととする。
	その他	改善活動	5S活動の実践	<ul style="list-style-type: none"> 各月で重点箇所（浴室脱衣場、倉庫等）を指定する中で5Sに取り組んできた。また、居室等ご利用者の生活環境においては、時間を設定して実施してきた。整理したエリアの物量も勘案して、乱れにくい整頓方法を実践していきたい。

事業所名

みわ翠光園

期

2024年度

項目		目標	実績値	進捗状況
標準目標	稼働率	入 所： 99% 生活介護： 100% 短 期： 110%	入 所： 98.5% 生活介護： 107% 短 期： 119%	入院のべ日数 4月～6月 25名 7～9月15名 10～12月 11名 1月～3月17名
	人件費率	47% [人件費：2億3251万円]	45%	人件費：2億2931万円 達成率：98.6%
	積立額	積立額：7796万円	9,985万円	達成率：128%
	有給消化率	平均75.0 %	92.4%	達成率：128% 昨年度：78% (14.4%UP)
	残業時間	年間：10時間以内/1人	0.62時間/1人：年間	4月～9月 平均0.78時間 10月～3月 平均0.46時間
	離職率	5%以下	7%	5月1名 9月1名 12月1名 1月2名 合計5名 (理由：健康面、年齢、自己都合)
施設 の 目 標	人事	教育	法人内外研修の積極的受講によるスキルアップ	・年間のべ128名参加。法人内研修・外部研修（介護、新任・中堅・感染症、ミュージックケア、理学療法士学会、虐待防止、強度行動障害基礎研修他）など各種参加。実務者研修受講後、介護福祉士資格取得1名。施設内では救急法、人権、消火器訓練他実施。リフトリーダー研修は参加できず次年度持ち越しとなる。
		エンゲージメント	個別面談の充実	・年2回の定期面談は全スタッフ実施。他適宜面談を実施。新任・中途採用職員はチューター以外のスタッフもフォローに努め定期的に面談を実施し思いを確認、サポートを行った。インターナルマーケティングの結果では職場の改善目標を設定。ポスターを掲示し、全体で取り組んだ。
	業務	サービス品質	サービスの質の向上 ご利用者満足度の向上	・毎月サービス向上MTGで支援・RM・人権について検討し支援の見直しを図る。他職種間連携の下、個別リハビリや健康管理を確認、共有する。みわRM啓発を毎月チャットで発信・啓発を継続実施。転倒事例は多くカメラ画像で要因を分析し居室移動など環境設定を都度見直した。行事や定期的な「みわショップ」、イベントでのボランティア催しなどお楽しみ企画を実施。10月ご家族面会行事。3月ご家族満足度アンケートを実施。
		生産性向上	見守りシステムの効率性アップ 各種システムの効率的な運用	・見守りカメラは確認と検証、再発防止策を立てる上で活用が増える。効率的な運用に向け7月、12月に使い方確認研修会を実施。12月、7台追加導入（親和ユニット）完了。未設置は16部屋となる。Googleはまだ不慣れな職員が多い。
その他	改善活動	光熱水費削減 施設内環境整備・美化	・電気使用量の資料を掲示し節電の呼びかけを定期的実施。エアコン使用料がアップする季節はサーキュレーターの活用と無駄な運転がないよう時間帯ごとでON、OFFを決め周知徹底。5S活動は日々のプログラムで時間を設定し実施。	

事業所名	JUMP	期	2024年度
------	------	---	--------

項目		目標	実績値	進捗状況
標準目標	稼働率	108%	108.4%	・6月より定員40名へ変更、契約ご利用者の継続的利用に繋がられている ・グループホームご利用者の入院により稼働率にも影響が見受けられた
	人件費率	67.8% [人件費：7,337万円]	59.1%	人件費：6916万円 達成率：94.2%
	積立額	積立額：190万円	1,494万円	達成率：786%
	有給消化率	平均80%	83.6%	達成率：104.5% 昨年度：83.1% (0.6%UP)
	残業時間	年間：10時間以内/1人	10時間/1人 : 年間	年間残業時間：141時間
	離職率	6%以下	25%	7月：1名 8月：1名 12月：1名 3月：2名 合計5名
施設の目標	人事	教育	事業所内外研修受講	・年間のべ13名が法人内部・外部研修に参加(介護研修・ミュージックケア・感染症・人権研修等)
		エンゲージメント	支援者としての意識醸成	・年度2回の定期面談と適宜必要に応じて個別面談を実施 ・意見要望の提案を募り、職場環境の改善・向上に取り組んだ
	業務	サービス品質	活動プログラムの定着化	・4月～5月 新JUMP活動プログラム検討・シミュレーションの実施 ・6月～新JUMP運営開始。 ・7月～活動プログラム内容の確認・変更を随時実施
		生産性向上	スタッフの連携・業務内容のブラッシュアップ	・毎月スタッフ会議を実施 ・活動プログラムに応じた、業務マニュアルの見直し・確認を実施
	その他	改善活動	事業所内の環境整備・美化推進	・新JUMP開設以降、必要備品の整備を随時実施 ・事業所内5S活動を実施

事業所名	友就館	期	2024年度
------	-----	---	--------

項目		目標	実績値	進捗状況
標準目標	稼働率	生活介護：121% 就労B：121%	生活介護：131.1% 就労B：108.8%	3月にコロナ感染者が数名あり、稼働に影響した。
	人件費率	39.9% [人件費：2,699万円]	39.1%	人件費：2,762万円 達成率：102%
	積立額	積立額：1,788万円	1,740万円	達成率：97%
	有給消化率	平均85%	93.2%	達成率：112% 昨年度：86% (7.2%UP)
	残業時間	年間：4時間以内/1人	4時間/1人：年間	急な欠勤による送迎対応以外の残業はなかった。
	離職率	0%	0%	7月に入職したパート職員の業務進捗も順調に進んでいる
施設の目標	人事	教育	農作業に対する知識・技術の向上 介護技術の向上	・ノウフク連携事業:アグリ認証で出前講座(ネギ)を受講(6/14・7/26・9/12・11/21) 見識を深めた 法人内介護研修:5名受講
		エンゲージメント	法人・事業所ルールの再確認 友就館の活動内容の広報	・スタッフ会議にて法人・事業所ルールの都度確認(携帯の使用・喫煙等) ・HP更新回数:29回(月平均2.4回)
	業務	サービス品質	ご利用者満足度の向上 工賃支払い総額：5%アップ (前年度比) 自社製品の開発	・工賃支払い総額:5,098,420円(前年対比4.4%アップ) ・黒ニンニク:試作品生産・パッケージを試作。食品衛生責任者資格を取得 10月ニンニク植え付け終了。R7.6収穫予定
		生産性向上	農園作業室の新設・ビニールハウス整備 業務への理解	・農園作業室:11月に完成 ・ビニールハウス整備:農園作業室建設時に発生した残土をビニールハウス内に入れ、 土壌改良(排水改善)実施。 ・委託作業担当の職員が農園作業に参加(6回実施)→今後も継続し、友就職員オールでの取り組みに繋げる。
	その他	改善活動	5S	・スタッフ会議にて翌月の整理整頓・清掃箇所を確認し実施。
	バリューアップ	ノウフク連携事業推進 民間企業との連携強化 安定した野菜の卸先確保	・ノウフク連携事業:次年度も事業が継続していれば品種を選定して応募する。 ・三恵観光との連携強化:ダラム800での販売会(16回実施)。イベントにも声を掛けていただき参加した。 ・コーナン産直館への納品回数を増やし、友就館の野菜を目にってもらう機会を増やした。 (売上前年対比6%増)	

事業所名	すきっぷ	期	2024年度
------	------	---	--------

項目		目標	実績値	進捗状況	
標準目標	稼働率	児童発達支援：90% 放課後等デイサービス：94% 保育所等訪問支援：10件/月	児童発達支援：93% 放デイ：93.3% 保育所等訪問11.25件	児発：関係機関との連携により体験療育や見学を通じて、安定した稼働となった。 放デイ：必要に応じて学校との連携や保護者面談を行い、安定した稼働となった。 保育所等訪問：長期休暇期間を除いて定期的な訪問が実施できた。	
	人件費率	68.6% [人件費：3,918万円]	67.8%	人件費：3,878万円 到達率：98.8% 1名の退職により人件費の目標値に至らなかった。	
	積立額	積立額：827万円	596万円	達成率：72.0%	
	有給消化率	平均75.0%以上	75.0%	達成率：100% 昨年度：77.1% (2.1%Down)	
	残業時間	年間：12時間以内/1人	12時間/1人：年間	超過勤務の目標値はほぼクリアーしているが、職員の働き方としては、改善が必要である。	
	離職率	0%	0%	パート職員の退職が1名あった。	
施設の目標	人事	教育	13名中のべ15回参加 【施設内】介護研修6名 【施設外】臨床心理士講座1名、中丹親子保健研修2名、発達支援研修会2名、発達検査講習会1名、臨床心理講座1名、感覚統合入門講習会1名、障害児童分野研修会1名		
		エンゲージメント	年4回ケース検討会の実施	①5/14 ②7/18 ③9/26 ④11/19 実施	
	業務	サービス品質	家族支援プログラムの実施	【児発】保護者会①5/11(13名参加) ②1/18(7名参加) 親子療育①6/10~14(19名参加) ②11/25~29(24名参加) 保護者面談51回/47名 【放デイ】保護者会7/20(6名参加) 参観日5/27~31(24名参加) ②2/3~7(28名参加) 保護者面談28回/45名 【訪問】保護者面談14回/12名	
		生産性向上	事務業務の効率化	関係機関との連携方法を変更し、残業時間短縮に繋がった。	
	その他	改善活動	5S	毎日の活動後に5S実施し、継続できている。	
		地域貢献	療育セミナー参加者50名以上 事後配信再生回数150回以上	セミナー当日参加者33名。事後配信35件申込み。再生回数120回	

事業所名

GH すまい・る

期

2024年度

項目		目標	実績値	進捗状況
標準目標	稼働率	入居：99.8%	入居：94.8%	入居：5名(在宅3名、あまだ翠光園2名) 入院：のべ8名(10月～12月6名、1月～3月2名)、内1名は長期入院のため契約解除 空床への新規入居者確定に時間を要した
	人件費率	33.0% [人件費：4,917万円]	39.9%	人件費：6,030万円 到達率：122.7%
	積立額	3,100万円	3,516万円	達成率：113.4%
	有給消化率	平均80%	77.7%	達成率：97.1% 昨年度：76.7% (1.3%UP)
	残業時間	年間：24時間以内/1人	6時間/1人 : 年間	年間残業時間：85時間
	離職率	6%以下	14.7%	9月：2名(世話人) 10月：2名(世話人) 12月：1名(支援員) 合計5名
施設の目標	人事	教育	事業所内での研修 ミニ勉強会実施	・年間のべ33名が法人内部・外部研修に参加(介護研修・ミュージックケア・感染症・人権研修等) ・事業所内勉強会・確認会を3回実施
		エンゲージメント	支援者としての意識醸成	・年度2回の定期面談と適宜必要に応じて個別面談を実施 ・意見要望の提案を募り、職場環境の改善・向上に取り組んだ
	業務	サービス品質	ご利用者支援・生活の質向上	○お楽しみイベントの実施 ・毎月：近隣スーパーへの買い物、スーパーハナコ開催 ・4月：お花見ランチ、8月：夏祭り、11月：映画上映会、12月：クリスマス会、3月：年度末お楽しみ会等、 季節的な余暇活動を実施
		生産性向上	スタッフの連携・業務内容 のブラッシュアップ	・毎月スタッフ会議、世話人ミーティングを実施 ・グループホーム世話人業務マニュアルの見直し・確認を実施
その他	改善活動	ホーム内の環境整備・美化推進	・各ホーム毎に不具合箇所の確認・修繕を実施 ・グループすいんぐ・はみんぐの美装工事を実施(10月)	

事業所名

GH YOU・ゆう

期

2024年度

項目		目標	実績値	進捗状況
標準目標	稼働率	入居：99.8% 短期：114%	入居:98% 短期:127.9%	入院:年間6人のべ9人（内1名は逝去・1名は長期入院による契約解除）空床による新規入居者について1名は入居確定まで日数を要してしまった。 SSについては急なキャンセル時も別の利用者に利用いただくことで、目標値を上回った。
	人件費率	37.8% [人件費：4,917万円]	34.1%	人件費：4,509万円 到達率：91%
	積立額	1,080万円	1,558万円	達成率：144%
	有給消化率	平均80% （YOUゆう専従職員・世話人）	93.4%	達成率：116% 昨年度：99.7%（6.3%Down）
	残業時間	年間：24時間以内/1人 （YOUゆう専従職員・医務職員）	14時間/1人：年間	残業となるケースについては、サビ管の役割的業務。他職員では突発的な利用者対応や欠勤の代替が多い。
	離職率	0人 （YOUゆう専従職員・医務職員）	22%	計4名退職：職員2名・看護師1名・世話人1名に退職あり。看護師については、新任職員への指導という面で課題が見られた。
施設の目標	人事	教育	法人内外研修を1人3回以上受講 （YOUゆう専従職員）	・法人内外研修を合わせて1人3回以上の研修実施。（介護研修・サビ管実践研修・人権研修・動画研修等）
		エンゲージメント	ご利用者・業務調整についてのケース検討・決定（毎月1回）	・毎月の職員会議でケース検討を実施。時間の有効活用の為、事前にアジェンダを提示。各職員が自分の意見を持って会議参加することで、決定までのプロセスが早くなった。また、業務都合で参加出来ない職員についても、事前に意見を確認し、集約をした。
	業務	サービス品質	余暇支援の充実：1/M以上4ホーム 利用者自治会の開催：1/2M以上 響奏	・非稼働日の外出の実施（2回/月）。YOUMEの会（1回/月）・利用者自治会（1回/2カ月）にて要望を確認した。 単独外出をする利用者については、外出ルールの再確認が必要なケースがあった。
		生産性向上	手順の可視化による職員の業務遂行力の底上げ、育成（1回/3カ月）	・見守りシステム導入やDX化に伴い、手順書を作成・掲示し職員理解の促進を図った。職員の中には依然苦手意識から理解しようとする姿勢に差があり、更なる精査が必要。
	その他	改善活動	5S（YOUゆう4ホーム）	・エアコンや共有スペースについては各ホーム実施出来たが、個人の居室については停滞した。
地域貢献		新組織体制に沿った 在宅（GH）生活支援強化	・デイむととべや友就館・おさだの翠光園管理職とも連携を密にし、GH・DSの様子を小まめに共有した。 また、デイむとべの職員会議に管理者・サビ管が参加した。	

事業所名

シンフォニー

期

2024年度

項目		目標	実績値	進捗状況
標準目標	稼働率	新規・利用時間数契約拡大 (年間3件以上)	IN: 4件 OUT: 3件	利用日数増(1件:身体介護)・新規利用3件(1件:身体介護・2件:家事援助) 利用終了3件(1件:身体介護・1件:家事援助・1件:STEPへ変更)
	人件費率	59.4% [人件費:4,302万円]	51.8%	人件費:3,787万円 到達率:88%
	積立額	113万円	995万円	達成率:880% (STEP4~6月分収入含む)
	有給消化率	平均80% (シンフォニー専従職員・兼務職員)	77.9%	達成率:97% 昨年度:80.2%(2.3%Down)
	残業時間	年間:12時間以内/1人 (シンフォニー専従職員・兼務職員)	6時間/1人:年間	残業となるケースについては、サビ提の役割的業務。他職員では突発的な利用者対応や欠勤の代替が多い。
	離職率	0% (シンフォニー専従職員・兼務職員)	6.6%	7月に1名の退職(加齢に伴う身体的負担が理由)
施設の目標	人事	教育	法人内外研修1人3回以上受講	・法人内介護研修・虐待防止研修・動画研修(上期・下期:加算要件)・DWAT研修等受講
		エンゲージメント	ご利用者支援・業務調整についての 検討・決定(毎月1回)	・毎月の職員会議でケース検討を実施。時間の有効活用の為、事前にアジェンダを提示。各職員が自分の意見を持って会議参加することで、決定までのプロセスが早くなった。また、業務都合で参加出来ない職員についても、事前に意見集を確認し、集約した。
	業務	サービス品質	個別支援計画・モニタリング (3カ月に1回)、対応変更の共有	・対応方法の変更については、サビ提を中心に掲示・chatwork等で視覚的に確認しやすいように工夫した。必要に応じて個別で説明の機会を持った。
		生産性向上	手順の可視化による職員の業務遂行力の 底上げ、育成(1回/3カ月)	・見守りシステムやDX化に伴う、手順書を作成・掲示し職員理解の促進をお図った。職員の中には依然苦手意識から理解しようとする姿勢に差があり、更なる精査が必要。
	その他	改善活動	5S(シンフォニー・響奏)	・過去資料の廃棄・ファイルの整理・備品庫の整理・資料のファイリングと追加資料の整理を行った。
	地域貢献	新組織体制に沿った在宅生活の支援強化	・各相談支援事業所から利用依頼ケース数件あり。特に男性ヘルパーがいるシンフォニーへのニーズが高いことを確認した。	

事業所名

デイむとべ

期

2024年度

項目		目標	実績値	進捗状況
標準目標	稼働率	108%	119.7%	医療的ケア者の重度化による他施設への異動、感染症による自宅療養での欠席から稼働が下がることがあったが、目標値は達成。
	人件費率	48.6% [人件費：19,420万円]	42.9%	人件費：18,722万円 到達率：96.4%
	積立額	9,936万円	万円	達成率：109.5% 稼働が目標値より上回ったこともあり、積立額が目標値よりUPした。
	有給消化率	平均75%以上	71%	達成率：94.6% 昨年度：90.6% (4%UP)
	残業時間	年間：20時間以内/1人	10時間/1人：年間	職員一人ひとりの業務の役割によって超過勤務の発生にばらつきがあった。業務内容の平準化が必要。
	離職率	5%以下	6%	1名離職（体調不良のため）
施設の目標	人事	教育	施設内・外研修の1人2回以上受講	【施設内】法人介護研修7名受講 来期残り2名の受講を予定 【法人外】参加できない。
		エンゲージメント	帰属意識を高める	・適時個別ミーティングを持ち、職場の課題や個々の思いを確認 ・パートを含めた専属職員全員参加での会議実施による意見共有、支援・業務内容の決定を実施 ・適時個別ミーティングを実施し職場の課題、個人の思いを確認
	業務	サービス品質	より安全・安心な支援の提供	・ヒヤリハット提出件数58件/インシデント件数59件/事故件数5件 ・嚥下能力に適した食形態への適時見直しを実施 ・GHと連携を取り、DSにおいても同じ内容の支援を提供することでご利用者の心身の安定に努めた
		生産性向上	効率の良い職員の働き方	・シフトごとの配置数を見直し、業務再配分による業務効率化を図った ・帳票類を見直し、入力時間の短縮と業務負担の平準化を図った
	その他	改善活動	職員の働き方の環境整備（月/回）	・スタッフ会議（月1回）にて業務内容等の見直しを実施 月平均7.5件を改善
		地域貢献	HP・chatwork等による、活動内容の紹介在宅支援の魅力発信・強化	・中丹支援学校から実習2名を受入れ（内1名が令和7年度からの利用に繋がった）

事業所名

相談支援センターてくてく / 市) 基幹相談

期

2024年度

項目		目標	実績値	進捗状況
標準目標	稼働率	計画相談（計画・モニタリング） 認定調査件数：前年比5%	915件	目標件数:943件（前年度実績+5%）に対して、実績915件（97%）であった。 +5%に至らなかったが、前年度実績895件に対しては2%増と着実に増えている。
	人件費率	74.2% [人件費：2,154万円]	66.7%	人件費：2234万円 到達率：103%
	積立額	77万円	458万円 [税込]	達成率：594%
	有給消化率	平均80%以上	89.2%	達成率：111% 昨年度：77%（12.2%UP）
	残業時間	年間：12時間以内/1人	33.5時間/1人：年間	年度末に残業が集中した。新年度体制変更による引継ぎや前年度対比によるケース 対応件数の増加(1.5倍)等が要因
	離職率	0%	0%	
施設の目標	人事	教育	法人内・外研修の 積極的受講（3回/1人）とOJT	・上原:医療的ケア児等支援者養成研修 ・松田-田村・北濱:高次脳機能障害支援者養成研修基礎・実践/医療的ケア児等コーディネーターフォローア ップ研修。その他市町村・中丹圏域開催の研修会に参加
		エンゲージメント	働きやすい職場づくり	・タブレット端末導入に向けた検討。チャットの有効活用による確実な情報共有とペーパーレス化
	業務	サービス品質	・実りあるケース検討の実践（1回/月） ・事業所内事例検討会議・研修会の実施 （2回/年） ・外部会議に向けたチーム内検討 とフィードバック	・月1回のケース検討については必要に応じてスタッフ会議内で行うこととしたが、事例検討会やフラッシ ュバック会議は未実施 ・スタッフMTGで外部会議に向けたチーム内検討とフィードバックを実施 ・事業所内研修:人権研修会(YOUゆうスタッフと共同で実施)・ハラスメント防止研修・感染症対策研修 普通救命講習
		生産性向上	ミニミーティングにて報・連・相の徹底	・週の予定を確認
	その他	改善活動	5Sの実践	・むとべ翠光園の書庫の整理・てくてく書庫の追加と再整理・事業所内大掃除と5S（年度末）
バリューアップ		市) 基幹相談支援センター事業の推進 -あるべきセンターの形にしていく1年に-	・市内相談支援事業所向けの事例検討会2回/年 他基幹の取り組みを福知山市に対して実績報告（3/21）	

事業所名

地域密着型介護老人福祉施設 橘

期

2024年度

項目		目標	実績値	進捗状況
標準目標	稼働率	入居：95%以上 短期：96.0%以上	入居：95.7% 短期：84.2%	・長期入居者10名退去後、随時入居者の受け入れ調整を実施し目標達成。 ・短期入所稼働においては、前半利用率低迷したが、後半より積極的に利用者・居宅支援事業所にアクションを図ることで稼働率向上するも目標値に届かなかったが引き続き情報共有を図る。
	人件費率	65% [人件費：12968万円]	64.4%	人件費1億2882万円 到達率：99%
	積立額	550万円	積立無	達成率：109% 収支差額：600万円を施設運営資金の為保留計上。
	有給消化率	平均65%以上	78.8%	達成率：78.8% 昨年度：82.3% (3.5%Down)
	残業時間	年間：20時間以内/1人	19時間/1人：年間	年間残業時間 計699時間 看護師のオンコール対応や職員体調不良による急な欠員のフォローなどイレギュラーによる残業が大半を占めた。通常業務における残業で見ればほぼ全体が退勤時間30分以内を厳守できた。
	離職率	5%以下	5%	介護職1名・パート調理職員2名・パート看護師1名の私事による退職。
施設の目標	人事	教育	・福祉職としての研修受講：受講率80%以上 ・福祉職員としての人材育成	・法人内研修を受講し専門的な知識や技術を学び考え業務に活かせる事が出来る様に学ぶ機会を全職員受講予定であったが、今期は70%の受講に留まり来期に持ち越しで受講予定。
		エンゲージメント	経営理念の浸透（週1回）	・昼礼にて法人理念の浸透とコミュニケーションの活性化を図り今後も働きやすい労働環境の構築を継続する。 ・業務課題改善を洗い出しサービスの向上に繋がる職場環境改善を計画検討実施中。
	業務	サービス品質	計画的充実したケアプラン作成	・心身の状況に伴う介護度を見極め更新申請及び区分変更申請手続き遂行できた。 ・個々の生活ニーズ、ADLを勘案しケアプラン作成実施を行い随時ご家族様に説明し承認同意を頂けた。
		生産性向上	職員全体で5Sの実践	・業務の効率化と明確化を検討し業務環境の改善に努めた。
	その他	改善活動	入居者、家族対象にアンケート実施	・利用者満足度調査実施結果を基に良い面の継続と改善点を共有しサービスの見直しと改善を図った。

事業所名	ほほえみの里	期	2024年度
------	--------	---	--------

項目		目標	実績値	進捗状況
標準目標	稼働率	デイ：稼働率92%以上 ハウス：稼働率90%以上 (稼働率を意識したデイ・ハウスの運営)	デイ：71.6% ハウス：79.3%	年間を通じて、コンスタントに新規入所者があったが、利用中止となった方も同数程度となった。(IN45人・OUT46人)また、支援ハウス利用者のコロナ感染がデイにも拡大して実績に影響した。ハウスについては、現在8床利用中。
	人件費率	65.2% [人件費：7,762万円]	78.8%	人件費：8032万円 到達率：103%
	積立額	872万円	積立無	達成率：0% 収支差額：-1,190万円 稼働が安定せず積み金はなかった
	有給消化率	80%以上/年を実現	82.2%	達成率：102% 昨年度：74.6% (7.6%UP)
	残業時間	月5時間以内/名(施設全体)	15時間以上:1名 5時間以上:1名 年間(月平均) 月給者・日給者	一部職員に偏りがちであった業務内容や役割の見直し・分掌を実施し、年度後半には残業は減少傾向となったものの年間では目標値よりも高い数値となった。
	離職率	5%以下	16%	介護職3名・看護師1名・宿直職員2名
施設の目標	人事	教育	法人内研修：正規職員の受講率100% 法人外研修：3回以上/年の参加	・法人内研修:毎回1名参加出来るように勤務を調整 事業所内研修:感染症・虐待・身体拘束等を実施 法人外研修:ケアマネ・相談員等一部職員のみでの参加となった
		エンゲージメント	職員が成長することで施設が成長する (研修会への参加促進)	・事務所や介護室に経営理念を掲示。経営理念カードを名札と共に携行。 ・研修会については、参加が少なかった。案内の都度掲示し、参加意向に沿って勤務調整を行っていく。
	業務	サービス品質	ご利用者視点のマネジメント力の向上	・毎月職員・パート職員MTG・ケアカンファレンスにより、以前に比べて広い視点を持った対応や改善策が話し合われるようになっている。
		生産性向上	中重度ケア体制加算を取得 次年度以降も継続して取得できるようにする	・加算継続算定中(月平均7割程度)約15万/月程度収入アップ。次年度看護師が育休かは復帰予定。更に算定できる日を増やしていく。
	その他	改善活動	衛生的に生活安全な施設を目指す (環境整備及び衛生管理体制の構築)	・清掃員直の業務内容の見直しを実施。一部介護職員への業務にも組むこみながら定着を目指した。
	BCPの実施及び強化	非常時における事業の継続 (DCPに繋がるBCPの構築)	・訓練に加え非常時の備品や保存食の確認を実施。緊急連絡網やチャットワークについても活用し有事の際即座に動けるよう取り組んでいる	